

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還協定調印式(2) (総理挨拶、談話、外務大臣挨拶)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43564

外務大臣の記者会見発言要領

大臣

20-101

無期限

情状局長
 情状局長
 新印

アメリカ局長
 参事官
 北米第一課長

衆議院外務委員の新聞記者会に
 11月4日発言要領(案)

46. 6. 17.
 米北一

本日ニハ 沖繩返還協定の署名を
 遂行し、一昨年11月の「日米・米日」
 共同声明発布以来、一年半余の昔昔
 が経たれど、自今とシテ 重要
 な果ては、拘りぬくは、進歩は、
 之等の各段、即協力に付、ニハ

GA-5

外務省

2

深甚なる謝意を表明するに付、
 あり。

沖繩返還という歴史の大事件
 1. 戦後の日米両国は結ばれた
 停戦協定に基礎を置いた。両国
 の一大政治的決断の上に行われ
 た。取決の2. 21. ^{如加国加} 4半世紀に
 至る「戦後」から完全に脱却
 1264号
 右半済新時代といわゆる1970年代
 1. ~~修訂~~ 米北一
 内閣は、日米両国の友好親善関係

GA-6

と確固不動の基礎にのせよと云ふ事

の出来事を知りて確信を得

物にして、長日の沖流は是れ

定業名を以て、沖流は是れ

不変の意義と云ふ事

かかる程から、~~補強~~ 補強は必要あり

協定の内容に於いては、11月

沖流臨時国会等、協定は、(国)

会、客議を以て、位を以て(名)

か、一口に云ふ「権威、重ん

並に、この長期間を費(つとむべき)

如き、百の沖流特許を始り、金田

民の初期と信頼に依り得る

たのと確信に於ける

~~11月の沖流は是れ、~~

~~外交交渉と同様、基本的には日米両~~

~~国の各條の協定であり、~~

~~いかに交渉に於ても、一國の主張~~

~~を100% 通す事は出来ぬ~~

~~家内の協定に於ては、あり得るに~~

~~とあるが、^(交渉に於て) 交渉に於ては、主張に~~

~~は、活(主張)、弱を以て、~~

~~は、この程を以て、~~

~~作成は完成~~
~~協定 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)~~

~~協定 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)~~

協定

協定 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20)

協定 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20)

協定 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20)

協定 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20)

協定 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20)

協定 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20)

協定 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20)

協定

愛知外務大臣の新聞記者会見における
発言要領

昭和四六、六、一七
アメリカ局北米第一課

本日ここに沖縄返還協定の署名を無事了し、一昨年十一月の佐藤・ニクソン共同声明発出以来一年半余の労苦が結実したわけで、自分としてもこの重責を果しえてまことに欣快にたえない。これまでの各位の御協力に対し、ここに深甚なる謝意を表明する次第である。沖縄返還という歴史的の大事業は、戦後の日米兩國を結ぶ友好信頼關係に基礎をおいた兩國の一大政治的決断の上に行なわれた取決めであり、わが國が四半世紀にわたる「戦後」から完全に脱却して、いわゆる太平洋新時代といわれる一九七〇年代にふさわしく、日米兩國の友好親善關係を確固不動の基礎にのせるものであることを確信する。

秘
表
まで

私としては、本日の沖縄返還協定署名を終え、沖縄返還の持つ歴史的意義というものをかかろる観点から一入痛感する次第である。協定の内容については、いざれ沖縄臨時国会等の場における国会の審議を注目していただきたいと思うが、一口にいつて「核抜き、本土並み」という大原則を貫くことができ、その点百万沖縄県民を始め全國民の御期待と信頼に応えたものと確信している。協定については、後國令案審議等共効りため必要を手續をとり ~~すすめ~~ることとなるが、政府としては協定署名を無事了した今日からは、これまで長い間苦勞を重ねてこられた沖縄県民の方々の心構に思いをいたし、復帰対策に全力を傾注して参りたいと考えている次第である。